

# がん診療連携拠点病院研修会資料

シリーズ

これだけは知っておこう 「がん治療の最前線

## 第1回 広島北キャンサーネット研修会

### プログラム

#### 講演 1

『早期胃がん内視鏡治療のすべて』

広島市立安佐市民病院 消化器内科 部長 永田 信二先生

#### 講演 II

『胃がん治療で外科の出る幕』

広島市立安佐市民病院 外科 主任部長 平林 直樹先生

日 時： 平成 22 年 5 月 27 日（木） 19:00～

場 所： 広島市立安佐市民病院 南館 3 階講堂

対象者： 当院医師、看護師、その他

地域連携医療機関医師、看護師



2

広島北キャンサーネット  
癌研修会—胃がん編—

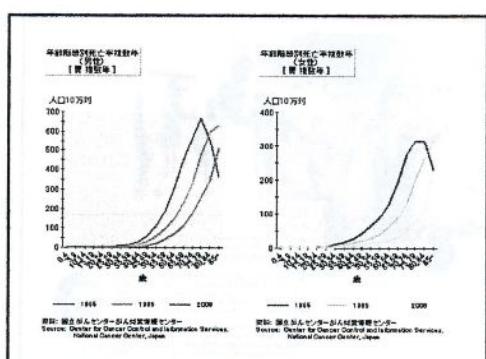
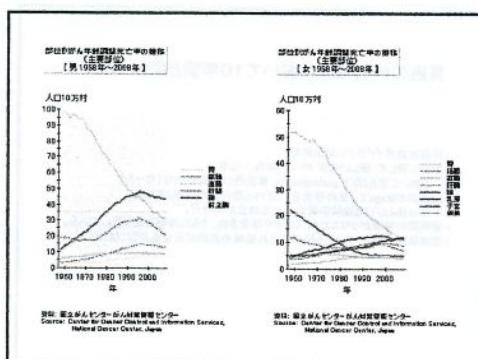
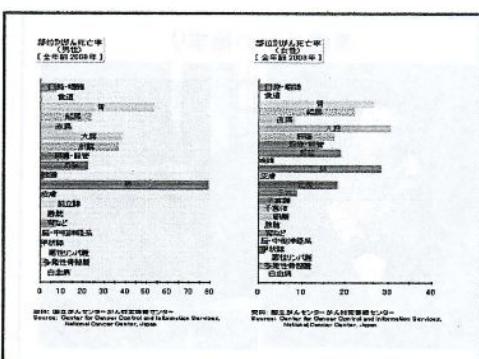
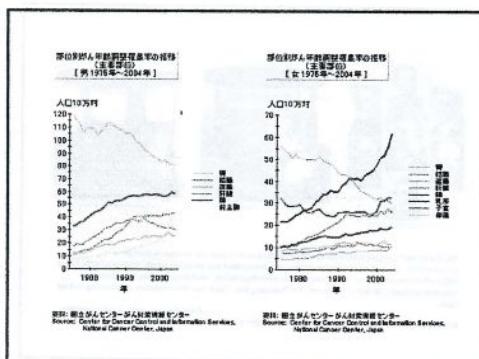
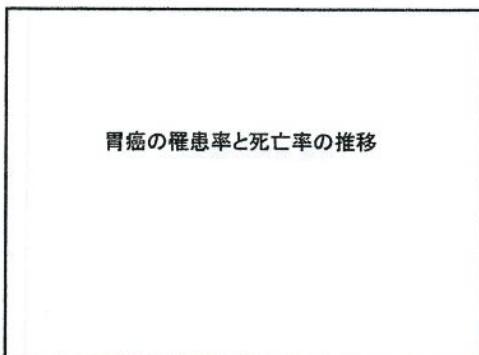
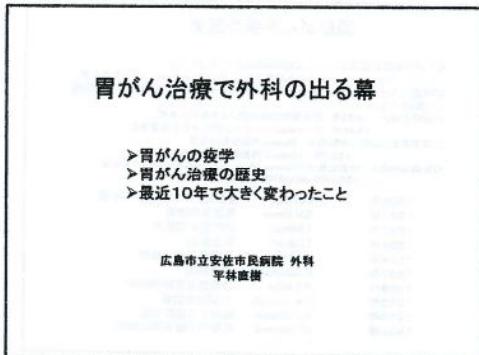
2010/05/27

## 胃がん治療で外科の出る幕

- 胃がんの疫学
  - 胃がん治療の歴史
  - 最近10年で大きく変わったこと

広島市立安佐市民病院 外科  
平林直樹

## 胃癌の罹患率と死亡率の推移



## 胃癌治療の歴史

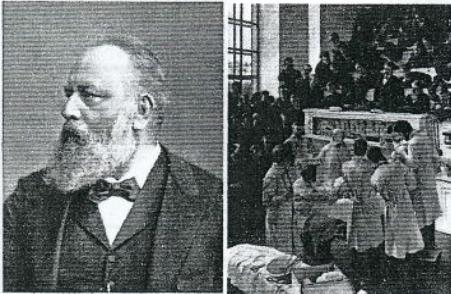
## 形形がん手術の歴史

外科が現在のようにScienceとして認められるようになったのは「放射線」がなかったからで、その歴史は、医学上、手術上、されたもののがある。さらにRoentgenによるX線の発見、20世紀に入ってきたらLandstainerによる血液型の発見と輸血法の確立が重要な役目を果してきた。

- 1)麻酔の導入：1806年　栗田青洲の通仙散による乳がん手術
- 1846年　W.Mortonのエーテル麻酔による下顎骨手術
- 2)細菌感染と消毒：1850年台　Pasteurが微生物の発見
- 1867年　Listerが石炭酸による消毒法を発明
- 3)止血法の導入：19世紀後半にKocher, Pean, Spencerらが止血綿子を考案、1928年Cushingが電気止血装置の開発

1805年	栗田青洲	通仙散を用いた乳がん手術
1867年	C.J.Moore	乳房全切除術
1881年	T.Billroth	幽門側胃切除術
1884年	T.Billroth	脾全摘術
1894年	W.S.Helsted	定型的乳房切除術
1897年	K.Schletter	胃全摘術
1908年	W.E.Miles	肝全腫瘍切除術
1933年	E.A.Graham	片側肺全摘術
1935年	A.O.Whipple	脾膵十二指腸切除
1938年	S.F.Marshall	經胸的下部食道切除術

## 胃癌外科の始まり



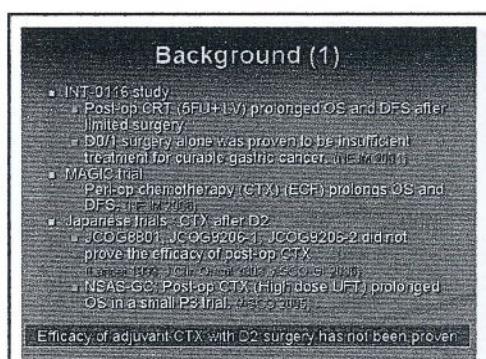
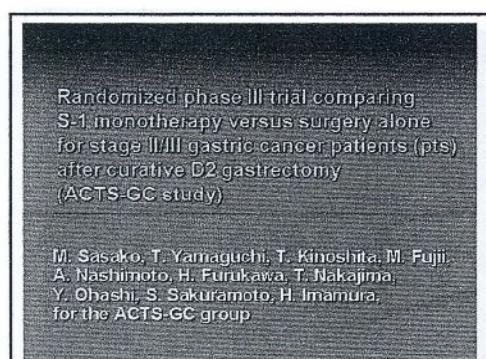
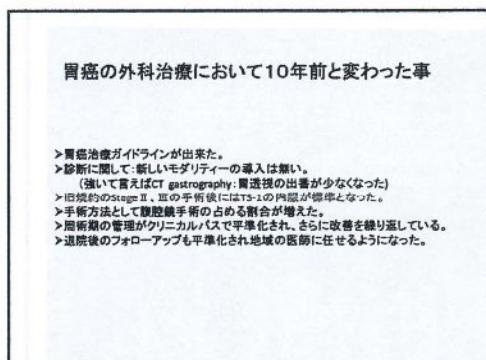
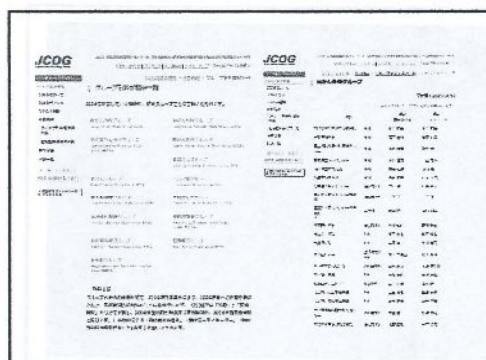
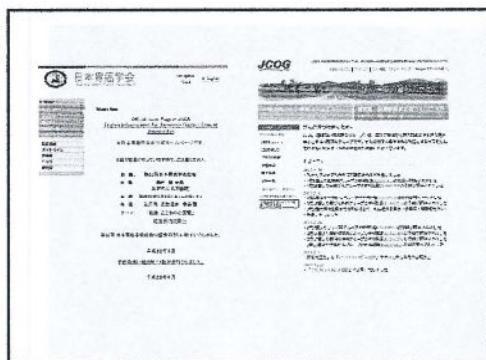
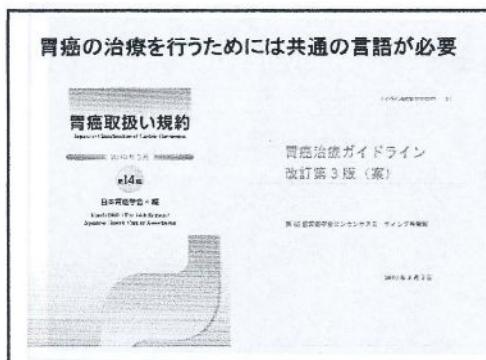
The first Billroth I partial gastrectomy was performed on a 41 year old woman in 1881 for pyloric gastric cancer. A 14 cm portion of stomach was excised and an anastomosis fashioned with about 500 carbolic silk sutures. Billroth wrote "The operation lasted, including the slow induction of anaesthesia about one and a half hours. The following day there was no weakness, no vomiting and no pain..."

"She is a very interesting girl, I would say. She is a good patient. A very understanding woman, feels well, lies extremely quiet, sleeps most of the night with the help of a small injection of morphine."

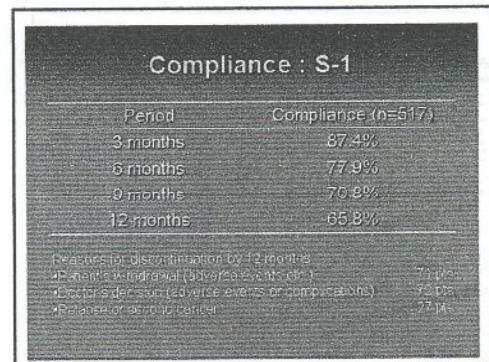
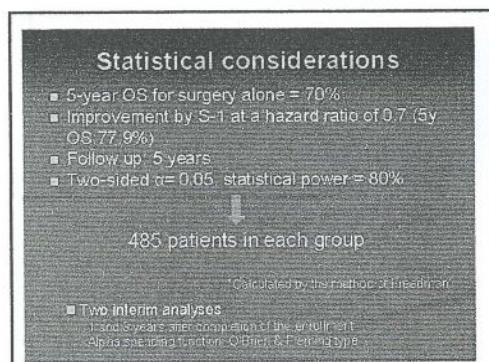
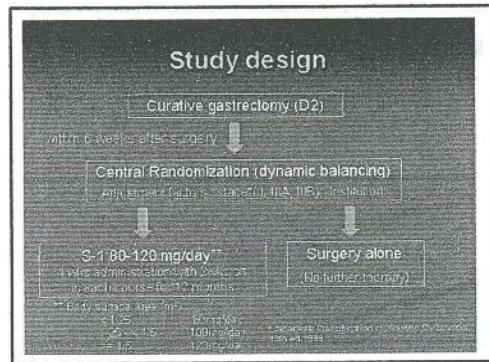
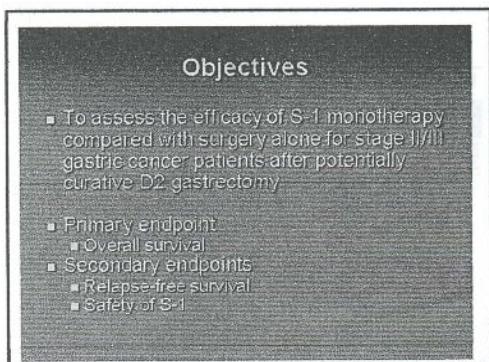


## 胃癌の外科治療において10年前と変わった事

- 胃癌治療ガイドラインが出来た。
- 診断に関して、新しいモダリティの導入は無い。  
(強いて言えばCT gastrography: 胃透視の出番が少なくなった)
- 旧規約のStage II、IIIの手術後にはT1-T2の内服が標準となった。
- 手術方法としては腹腔鏡手術の占める割合が増えた。
- 病術後の管理がクリニカルパラメータ化され、さらに改善を繰り返している。
- 退院後のフォローアップも標準化され地域の医師に任せせるようになった。



(5)



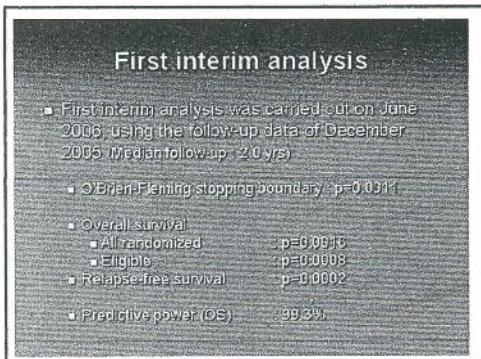
### Adverse events (1)

	S-1 (n=517)	Surgery alone (n=514)	
Grade 3-4 (Grade 3+ Grade 4)	Grade 3-4 (Grade 3+ Grade 4)	Grade 3-4 (Grade 3+ Grade 4)	
Leukopenia	1.2%	0%	0.4% (0%)
Hematopenia	1.2%	0%	0.5% (0.2%)
Protein	0.2%	0%	0.4% (0%)
AST	1.7%	0%	0.3% (0%)
ALT	1.5%	0%	0.2% (0%)
Total bilirubin	1.4%	0.2%	1.3% (1.1%)
Transaminase	0%	0%	0.2% (0%)
NEUTROPHIL	0%	0%	0.2% (0%)

### Adverse events (2)

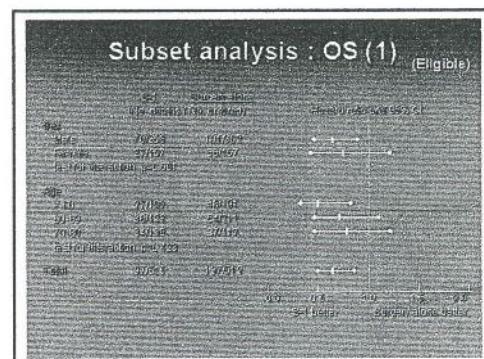
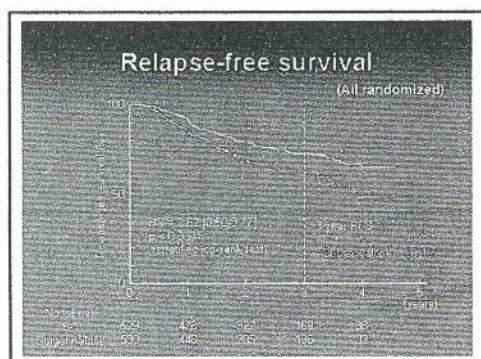
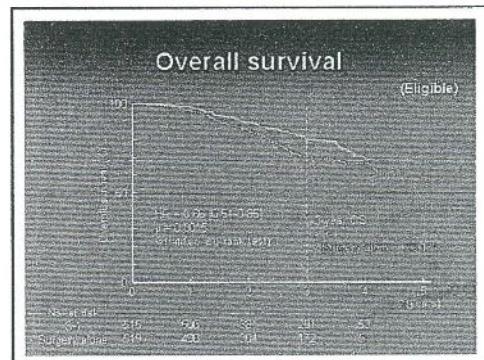
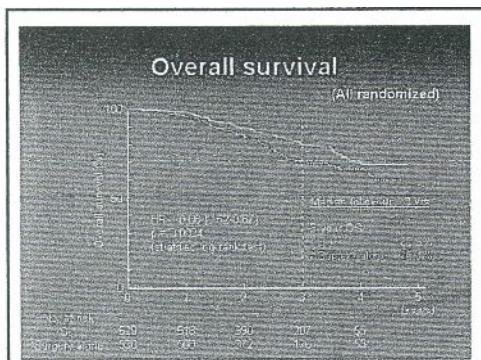
	S-1 (n=517)	Surgery alone (n=514)	
Grade 3-4 (Grade 3+ Grade 4)	Grade 3-4 (Grade 3+ Grade 4)	Grade 3-4 (Grade 3+ Grade 4)	
Stomatitis	0.2%	0%	0.1% (0%)
Arthralgia	5.0%	0.7%	1.5% (0.6%)
Nausea	0.7%	—	1.1% (0%)
Vomiting	1.2%	0%	1.2% (0.5%)
Dizziness	1.2%	0%	0.2% (0%)
Pain	1.0%	0%	0.4% (0%)
Fatigue	0.9%	0%	0.2% (0%)
Neutropenia	0%	0%	0.2% (0%)

Grade 3-4 (n=24) Grade 3-4 (n=11) Grade 3-4 (n=2)

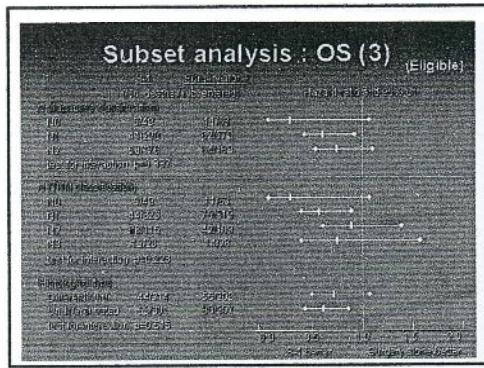
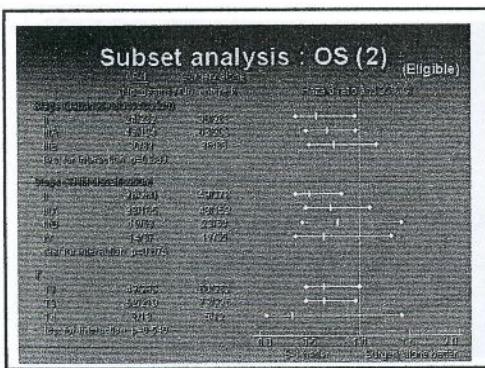


**DSMC recommendation**

- On June 20th, 2006, the DSMC concluded that the treatment was effective and recommended stopping the study and opening the survival results.
- Eligible patients: Stopping boundary:  $p=0.0011$
- Overall survival
  - All randomized:  $p=0.0010$
  - Eligible:  $p=0.0008$
- Relapse-free survival:  $p=0.0002$
- The investigators accepted the recommendation.
- Final analysis was carried out on November 28th, 2006.



広島北キャンサーネット  
癌研修会—胃がん編一

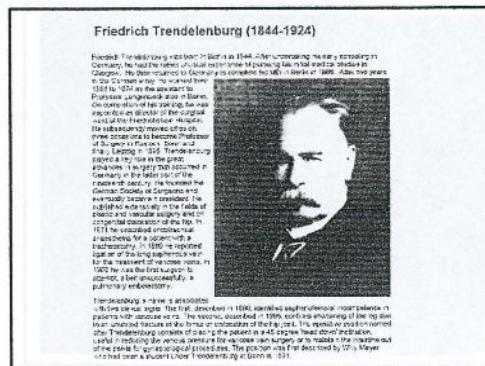


Site of relapse		
Site	S-1 (n=529)	Surgery alone (n=530)
No. of relapses	133 (25.1%)	188 (35.5%)
Local	7 (1.4%)	15 (2.8%)
Lymph nodes	27 (5.1%)	46 (8.7%)
Peritoneum	60 (11.2%)	84 (15.8%)
Hematogenous	54 (10.2%)	60 (11.3%)

### **Conclusions**

Post-operative adjuvant CTX with S-1  
for gastric cancer is safe and highly  
effective.

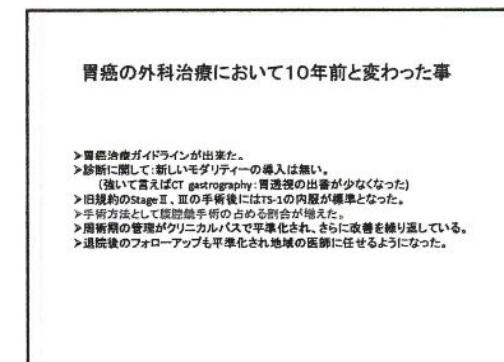
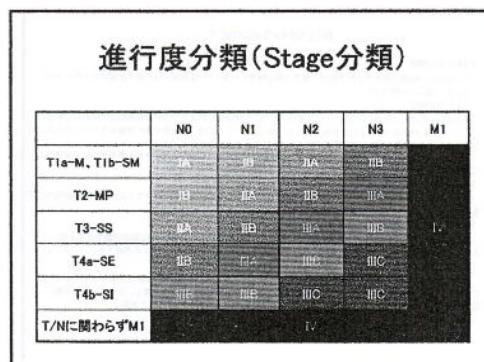
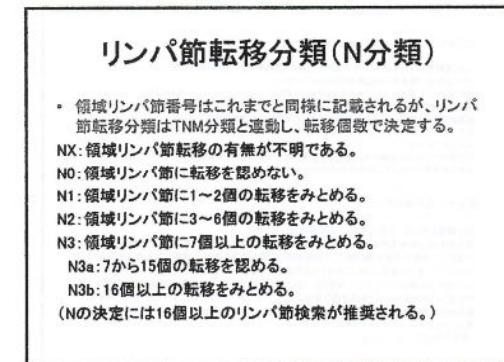
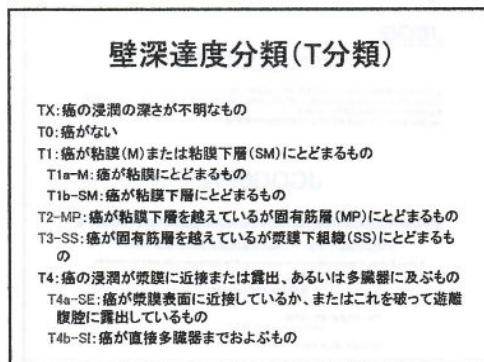
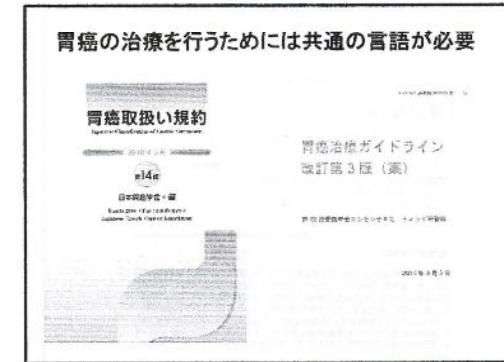
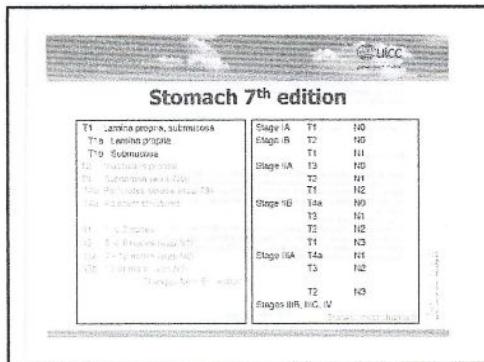
Single-Agent S-1 can be considered as the standard treatment for stage II/III gastric cancer pts after potentially curative D2 dissection.



⑥

## 広島北キャンサーネット 癌研修会－胃がん編－

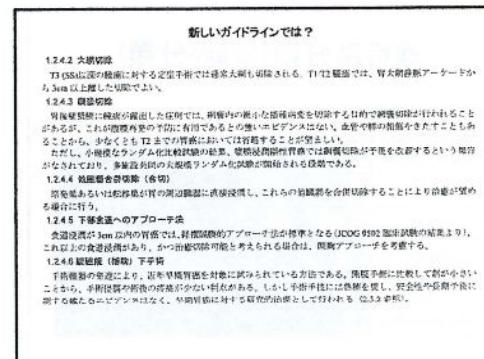
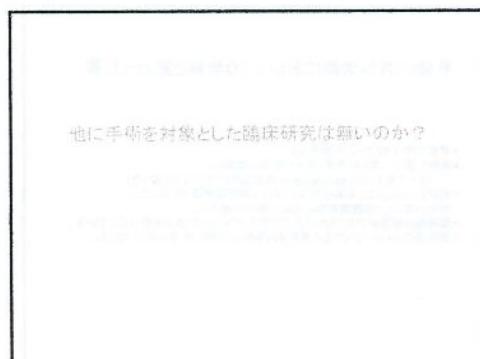
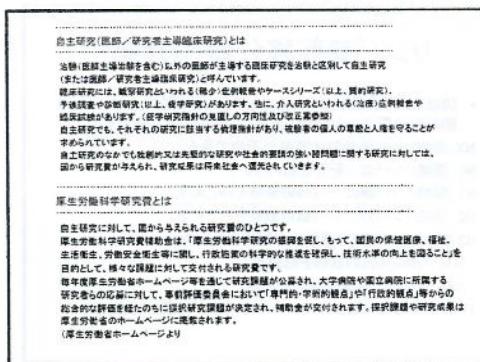
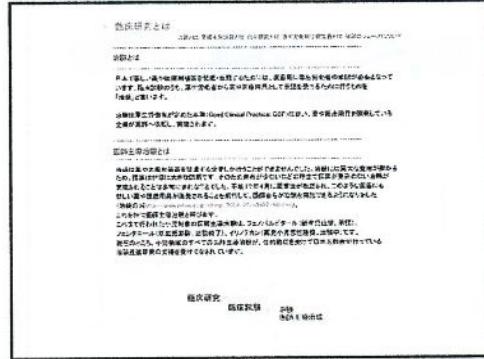
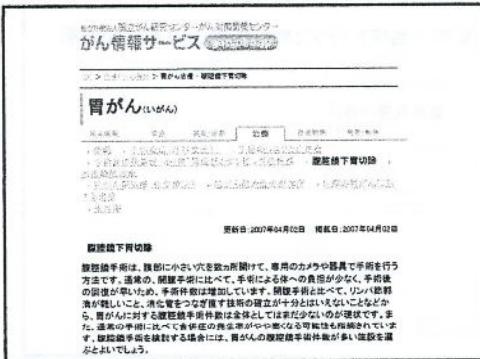
2010/05/27



①

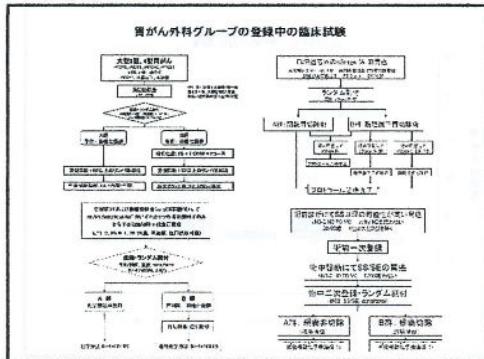
2010/05/27

## 広島北キャンサネット 癌研修会－胃がん編－



広島北キャンサーネット  
癌研修会—胃がん編一

2010/05/27



## 胃癌の外科治療において10年前と変わった事

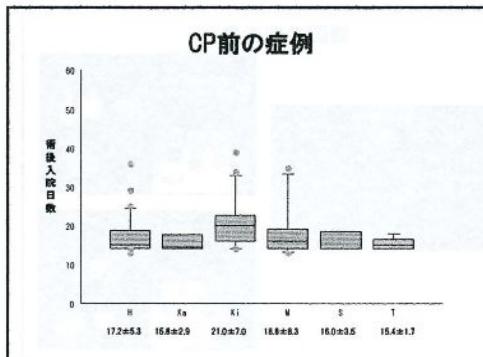
- 青筋治療ガイドラインが出来た。
- 診断に新しいモダリティーの導入は無い。
  - (強いて言えばCT gastrography、胃透視の出番が少なくなった)
- 旧規約式T1、II、IIIの手術後にはTS-1の内腹が標準となつた。
- 手術方法として腹腔鏡手術の占める割合が増えた。
- 間隔的の管理がクリアル化され平素化され、さらに改善を繰り返している。
- 退院後のオラフープも平素化され地域の医師に任せようになった。

術後入院日数

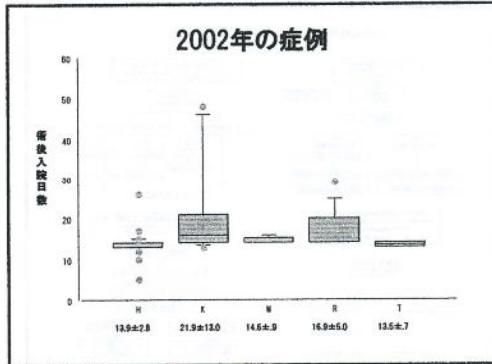
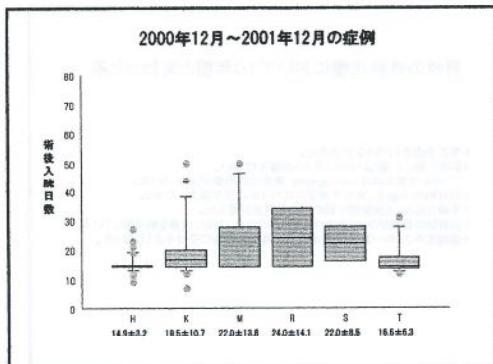
術後入院日数	CP前	2001年症例	2002年症例
11日以下	0	3	2
12日	0	3	1
13日	2	3	9
14日	24	37	29
15日	7	4	5
16日	4	3	1
17日以上	28	21	11

#### Negative Variance(3日以上)の原因

	CP前	2001年症例	2002年症例
吻合部の問題	8	9	5
感染症	2	3	2
その他の術後合併症	1	1	2
術前合併症の治療	3	6	1
特別な合併症なし	14	2	1



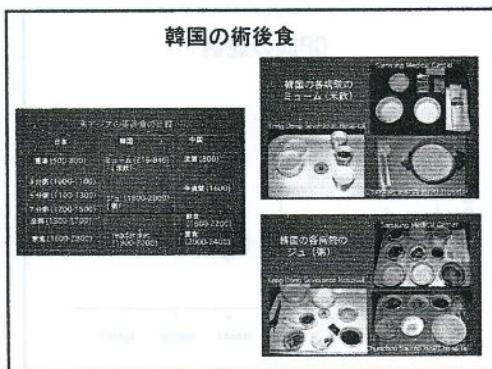
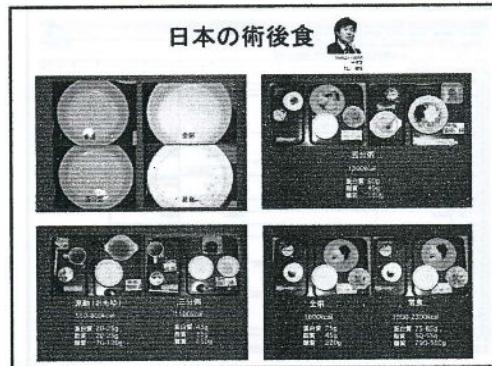
2010/05/27



CPの変遷

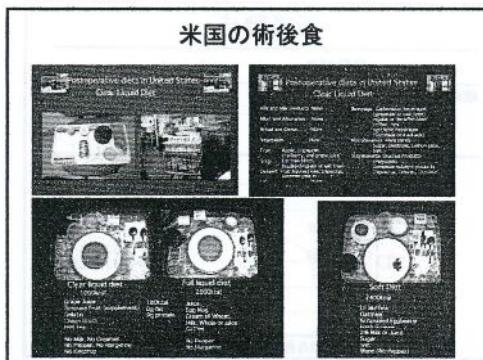
CP運用開始時	2002年	CP最新版(2003)
退院日	14日	10日
抗生素質	第1病日まで	第1病日まで
胃管抜去時期	挿ガス日	第1病日
ドレーン抜去時期	経口開始翌日	第2病日(あるいは挿入しない)
バルーン抜去日	持続硬膜外麻了後	第3病日
経口開始日	挿ガス日	第4病日(飲水は翌日から)
食事	流動食より毎日アップ	同左
禁食指導日	退院前(随時)	8病日および退院後2週間目
退院基準	なし	食事摂取5割以上

○内は2004年後半から



広島北キャンサーネット  
癌研修会－胃がん編－

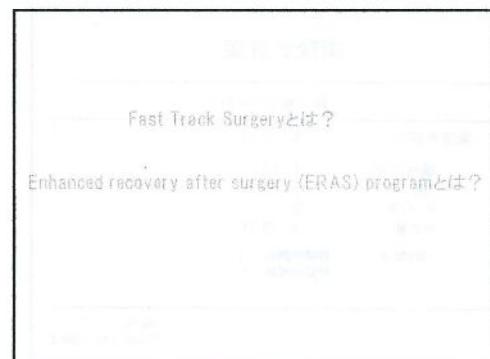
2010/05/27



**新しいCP適応後の結果**

	2002年症例	2003年症例	2004年以降の症例
年齢	65.8±10.4	63.7±13.6	68.0±11.7
男女比	44/21	26/15	46/21
胃癌ステージ			
I A	47	29	31
I B	16	4	4
II	9	6	11
III A	3	6	11
III B	1	0	4
IV	7	5	7
全入院期間	27.5±7.7	19.3±4.3	18.8±5.5
術後入院期間	18.0±5.9	11.3±2.0	11.9±4.7
術前合併症の有無	あり: 34, なし: 39	あり: 28, なし: 13	あり: 47, なし: 20

2005年胃癌学会



**ERASを意識した幽門側胃切除後の新しいバス**

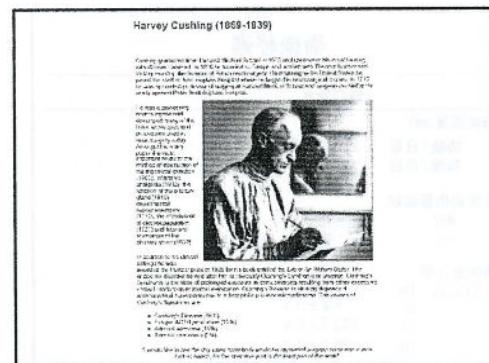
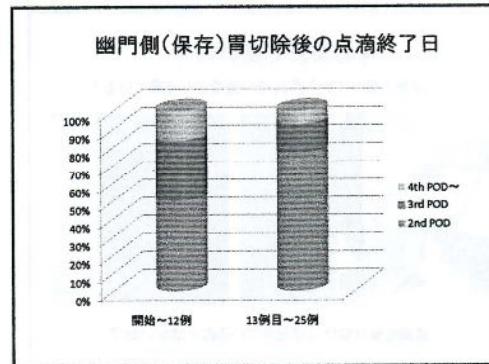
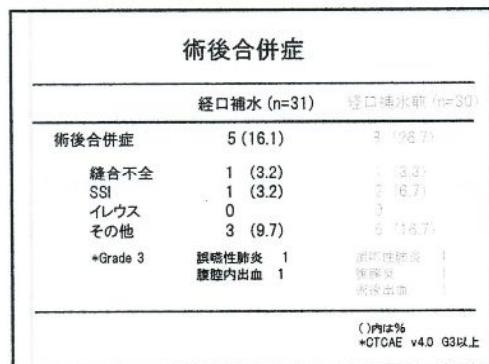
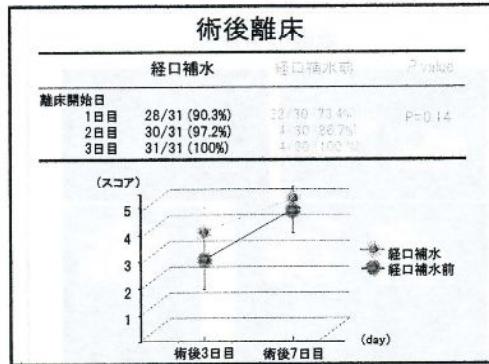
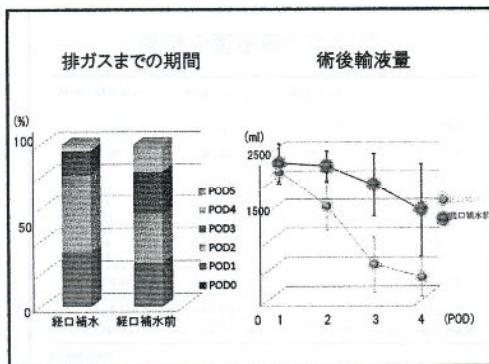
**術後経過**

	経口補水	経口摂水量	P value
<b>術後尿量(ml)</b>			
術後1日目	2350±685	2203±503	0.387
術後2日目	2222±73	2665±738	0.077
<b>術後消化器症状</b>			
あり	5	11	0.160
なし	26	19	
<b>術後生化学</b>			
(POD3)	Na <sup>+</sup> K <sup>+</sup> Cl <sup>-</sup> Ht	137.0±2.1 4.4±0.3 103.2±2.4 35.0±4.8	136.1±4.2 4.2±0.4 103.8±4.8 34.7±4.9
			0.325 0.176 0.159 0.811

(13)

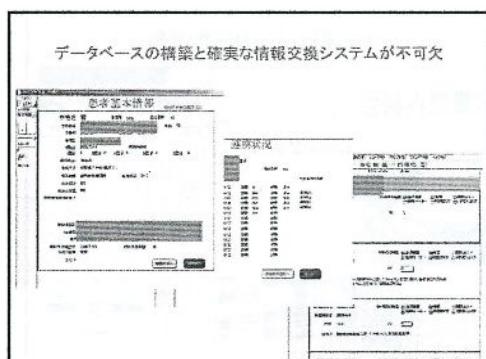
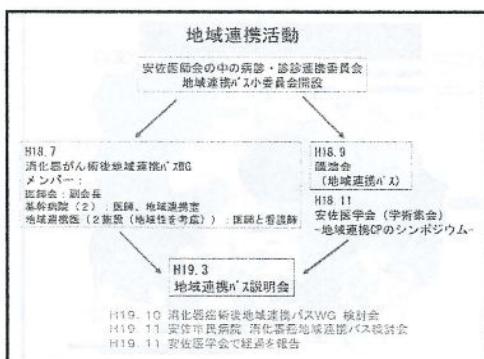
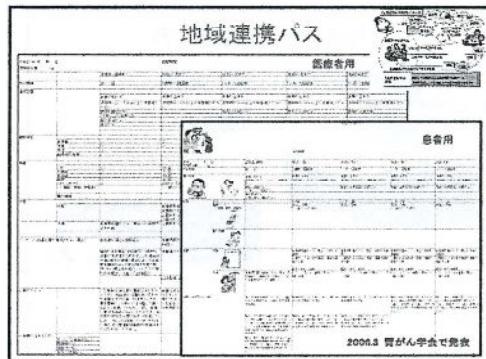
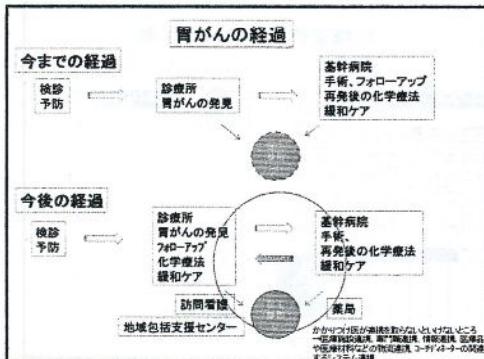
## 広島北キャンサーネット 癌研修会－胃がん編－

2010/05/27



**胃癌の外科治療において10年前と変わった事**

- ▶腎癌治療ガイドラインが出来た。
- ▶診断に関して:新しいモダリティの導入は無い。  
(強いて言えばCT gastrography: 胃透視の出来が少なくなった)
- ▶旧規約のStage II、IIIの手術後にはTS-1の内服が標準となった。
- ▶手術方法として腹腔鏡手術の占める割合が増えた。
- ▶腫瘍細胞の管理がクリニカルパスで標準化され、さらに改善を繰り返している。
- ▶追院後のフォローアップも標準化され地域の医師に任せられるようになった。



**今までの地域連携バスに加えて患者情報の連絡方法の変更が必要！**  
→定期的に連携医に連絡票をFaxで送る

**患者情報連絡表**

連絡票 実行部長印  
Fax090-511-1234

**通院検査予定表**

**何か一言書くことが重要！？**

管理を完全に地域連携室が行うと診療科レベルの関係が希薄になる  
→バスが単なる道具になる  
→大切なのはヒューマンネットワーク

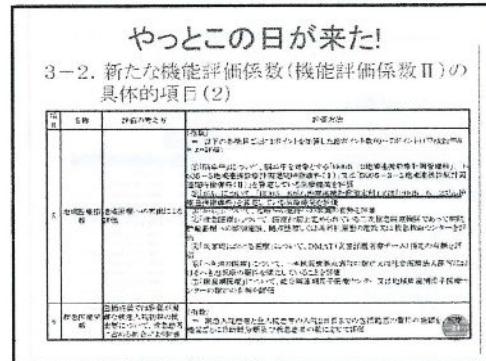
**患者情報連絡表**

連絡状況

15

広島北キャンサーネット  
癌研修会—胃がん編—

2010/05/27



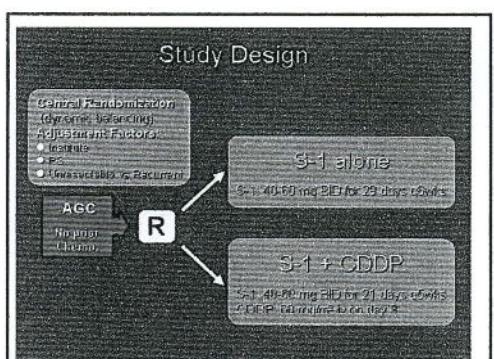
がん診療連携拠点病院に係る評価	
▶ がん診療連携拠点病院におけるキャンサーボード、院内がん登録等の更なる充実を評価	がん診療連携拠点病院加算 400点 → 500点
▶ がん診療に係る地域連携の評価	(回) がん治療連携計画策定料 750点(追加料) (回) がん治療連携指揮料 300点(情報連携料)
がん治療の評価	
▶ 複雑化、高度化する外来化学療法の評価	外来化学療法加算1 500点 → 550点
▶ 放射線治療病室におけるRT内用療法等の管理の評価	放射線治療病室管理加算 500点 → 2,500点
がん患者リハビリテーションの評価	
▶ がんの特性に配慮したがん患者リハビリテーションの評価	(回) がん患者リハビリテーション料 200点(1単位につき)

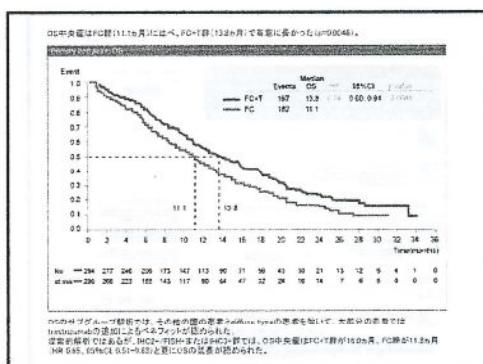
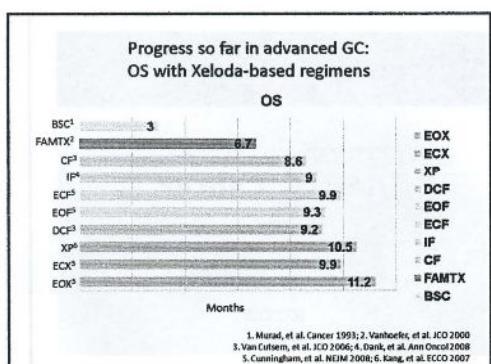
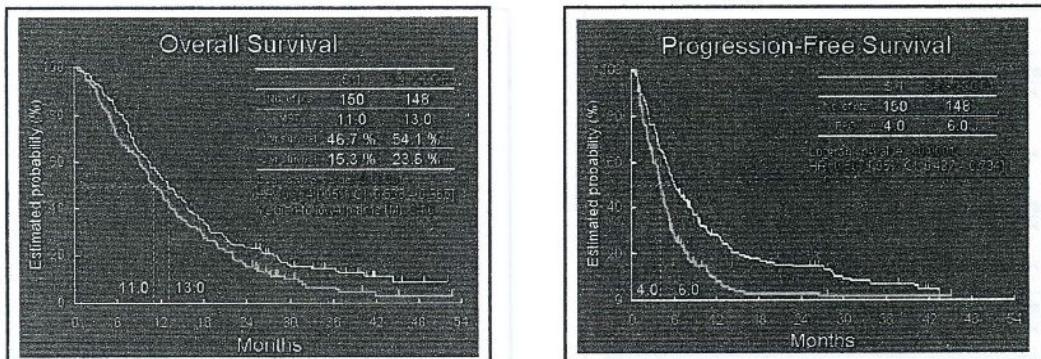
### 外科治療ではないけれど胃がん治療で忘れてはいけない最近の知見

The screenshot shows the NCCN homepage with a dark header containing the NCCN logo and the text "National Comprehensive Cancer Network". Below the header is a search bar and a navigation menu with links like "About NCCN", "About NCCN", "About NCCN", "About NCCN", "About NCCN", and "About NCCN". The main content area features a large banner with the text "NCCN Guidelines® for Clinical Care". Below the banner, there are several sections: "About NCCN", "About NCCN", "About NCCN", "About NCCN", "About NCCN", and "About NCCN". There are also links to "NCCN Guidelines® for Clinical Care", "NCCN Clinical Practice Guidelines in Oncology", "NCCN Clinical Practice Guidelines in Oncology", and "NCCN Clinical Practice Guidelines in Oncology". On the right side, there is a sidebar with the title "Upcoming Events" and a list of events including "NCCN Annual Meeting", and "NCCN Annual Meeting".

**Randomized phase III study of S-1 alone versus  
S-1 + cisplatin in the treatment of advanced  
gastric cancer  
(The SPIRITS trial)**

**SPIRITS: S-1 plus cisplatin vs S-1 in RCT in the  
treatment of stomach cancer**





(18)

シリーズ

これだけは知つておこう “がん治療の最前線”

## 第回 2 広島北キャンサーネット研修会

今年度最初のがん研修を以下の要領で開催することになりました。今年度は“これだけは知つておこう”をテーマにして各癌腫についての治療の最前線の講演を予定しております。第一回目は胃がんを取り上げました。次回（第2回）は乳がんを予定しております。是非ご参加をお願い申し上げます。

会の詳細が決まりましたら、また、ご案内させて頂きます。

開催日時：平成22年7月22日（木） 19:00-20:30

会場：広島市立安佐市民病院 南館3F 講堂

広島市安佐北区可部南2-1-1 Tel:082-815-5211

参加費：500円（但し学生、研修医、コメディカルは除く）

講演テーマ：乳がん医療最前線～安佐市民病院の取り組み～

講師予定者：看護師の立場から：岡田知登美

病理の立場から：金子真弓

臨床の立場から：久松和史

共催：広島市立安佐市民病院 他

後援：安佐南区医師会、安佐北区医師会、安芸高田市医師会、山県郡医師会